

# 2) 普及活動の変革と進化 01

## 地域に密着した 手渡しで安全を伝える活動



Honda Cars（四輪販売会社）では店頭での安全アドバイスなど、お客様との触れ合いを大切にされた手渡しの安全活動を実践しています。さらに、販売拠点がある地域社会にも活動の輪を拡げるため、Honda Cars による活動の質を高めるための支援を続けています。



### ●より多くのお客様、地域社会との絆を深める

現在、Honda Cars（四輪販売会社）が力を入れている取組みは、Honda の交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編（以下、あやとりい）」を活用した幼児向け交通安全教室の展開です。Honda は Honda Cars のスタッフが交通安全教室の指導者となるように、研修会を実施しているほか、円滑に運営するためのマニュアルを作成し、指導ノウハウを各社に提供しています。群馬県内の Honda Cars で構成する群馬県ホンダ会では7月に会員各社のスタッフを集め、「あやとりい」活用のための研修会を開催しました。Honda のインストラク

ターが「あやとりい」の指導内容を解説し、ワークシートを使って実演。その後、参加者が指導者役と受講する園児役になり、指導内容を実践しました。群馬県ホンダ会総務委員長を務める後藤美智雄さん（Honda Cars 高崎北・取締役常務執行役員）は「小さなお子さんが交通事故に巻き込まれないようにすることで、地域に貢献していきたいと考え、『あやとりい』を取り入れることにしました。各拠点が幼稚園・保育園で交通安全教室を開催できる体制づくりをめざしています。53 拠点あるので、群馬県全域で展開していきたい」と話しています。



群馬県ホンダ会の会員各社のスタッフを対象にした「あやとりい」活用のための研修会



### ●各地域のニーズに合わせて「あやとりい」を展開

Honda は「あやとりい」を全国 186 社の Honda Cars に普及し、そのうち 39 社が実際に活用を始めています（11 月末時点）。Honda Cars 埼玉県央（埼玉県）では、5 月の大型連休中に全拠点で 64 名のお子様を対象に「あやとりい」による交通安全教室を実施しました。また Honda Cars 福岡（福岡県）ではお客様とそのお子様を対象にした「ファミリー安全運転講習会」を定期的に各拠点で開催しており、その中に「あやとりい」による交通安全教室を取り入れています。お子様と一緒に参加した保護者の方々からは「イ

ラストを使って説明してくれたので、小さな子どもでも理解できる内容だった」「こうした機会があると家族で参加しやすいのでありがたい」という声が聞かれました。Honda Cars 市川（千葉県）では拠点の近くにある保育園などにスタッフが外向いて交通安全教室を実施しています。さらに Honda Cars 三河（愛知県）は 10 月より愛知中央ヤクルト販売（株）と連携し、同社の各拠点に併設された保育園での交通安全教室をスタートするなど、Honda Cars を中心に地域に根ざした活動が拡大しています。

全国各地の Honda Cars ではショールームや、近隣の保育園・幼稚園で「あやとりい」による交通安全教室を実施



Honda Cars 福岡



Honda Cars 市川



Honda Cars 三河

### ● Honda Cars のスタッフに対する安全研修の充実

Honda Cars では、セーフティコーディネーター\*（以下、SC）という Honda 社内資格を持ったスタッフが店頭でのお客様への安全アドバイスや安全ミニ講習会開催に取り組んでいます。SC の資格を取得するためには SC 研修の受講が義務づけられています。Honda では今年度から、SC 研修を Honda Cars 各社が自主開催できる仕組みに改定しました。内容も、お客様と地域を守る活動を推進するために必要な安全意識を醸成できるものに見直しています。これまで SC 研修は営業スタッフを中心とした

が、全職種に拡げられることも可能となりました。Honda Cars 市川は 5 月に SC 研修を実施。受講したスタッフは「Honda の一員として、あらためて事故や違反を絶対にしないように気を引き締めます。また、安全アドバイスとともに Honda の安全に対する理念や取組みもお客様にお伝えしていきたい」と決意を新たにしていました。また、Honda Cars 横浜（神奈川県）では新入社員研修の中に SC 研修を取り入れ、早期からスタッフの安全意識向上を図っています。



Honda Cars 市川で実施されたセーフティコーディネーター研修

#### 交通事故ゼロの実現に貢献したい

四輪販売会社のスタッフは、お客様にとって一番身近な『交通安全のプロ』でなくてはなりません。そうした意識を醸成することが新しい SC 研修によってやりやすくなりました。研修を通じて、ノウハウだけでなく、Honda の安全思想や、どのような取組みを行ってきたかという根源的なことを理解しておくことは安全活動を進めるにあたって大切です。また、交通安全を地域に発信していくという取組みを活性化させるために、「あやとりい」による交通安全教室もさらに拡げていく予定です。四輪販売会社も Honda の一員として、交通事故ゼロの実現に貢献していきたいと思ひます。



ホンダ自動車販売店協会 総務委員会委員長 田口忍さん (Honda Cars 埼玉県央・代表取締役社長)

\*セーフティコーディネーター＝お客様に店頭などで安全アドバイスができるスタッフ（Honda の社内資格）



## 2) 普及活動の変革と進化 02 交通安全教育に取り組む 地域の指導者をサポート



各地域に交通安全教育を定着させるためには、交通安全教育の現場を担う指導者の力が必要不可欠です。Honda の考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、地域の指導者、学校の先生方に対し、Honda の交通安全教育プログラムや教材、その指導方法の提供を通じて、交通安全教育をサポートしています。また、交通安全教育の場と機会を拡大するため、他業種と連携した活動にも取り組んでいます。



### ●地域の指導者による Honda の教育プログラムの活用

Honda では、全国 5 つの製作所／製造部内にある地区普及ブロック（栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本）が Honda の交通安全教育プログラムを活用した指導を実践するとともに研修などを通じて、そのノウハウを地域の指導者に伝えています。

昨年 11 月に Honda が開発した高齢歩行者プログラムは、今年から全国各地への本格的な普及が進んでいます。このプログラムは、道路横断中の事故を防ぐための安全行動を高齢者に理解していただくことを目的としています。事故にいたる過程を歩行者とドライバー各々の目線で再現した映像を使

い、事故の原因を高齢者に考えていただくことで安全行動への理解が深まる内容になっています。（一財）岡山県交通安全協会 水島交通安全協会では、鈴鹿普及ブロックからプログラムと指導ノウハウの提供を受け、1 月より高齢者向けの交通安全教室に取り入れています。同協会シルバーセーフティサポーターの虫上陽子さんは「豊富な映像や画像によって話だけでは伝えきれないことを上手く説明できます。運転免許を持っていない方だけでなく、経験豊富な高齢ドライバーの皆さんにも充実した中身だと好評です」と、このプログラムを評価しています。



再現映像を使った道路横断シミュレーションの体験  
（一財）岡山県交通安全協会 水島交通安全協会

### ●高校が独自で交通安全教育を実践できるマニュアル

高校生世代は、交通社会の一員としての責任を自覚した行動が求められる時期です。Honda は生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守れるようになるとともに、他の交通参加者への思いやりの心を身につけてほしいという考えのもと、独自に高校生交通安全教育プログラムを 2012 年に開発し全国の高校に拡げてきました。そして今年、高校が自主的に運営できることをめざし、「高校生交通安全教育指導マニュアル」を完成させました。このマニュアル（DVD / CD）には、高校生の自転車による交通事故の防止を目的とした「感受性教育※」「実技教育」といったプログラムを収録。それぞれの教育内容について映像を使って解説しています。

福島県立福島工業高等学校では、2013 年から Honda の高校生交通

安全教育を取り入れています。4 年目を迎えた今年も、同校の先生方だけで生徒への交通安全教育を実施。マニュアルを活用して、1 年生を対象にクラス担任の先生方 7 名が感受性教育を行い、生徒に相手を思いやることや、交通ルールを守ることの大切さを理解してもらいました。同校生徒指導部主事の渡部浩一教諭は「マニュアルは教育のフォーマットがきちんとでき上がっているのを見て準備をすれば、教員なら誰でも効果的な交通安全教育が実践できます。クラス担任の先生がやることで、私たちの意欲も生徒に伝わりやすい」と話しています。

※感受性教育とは、交通社会人としての責任を自ら考える座学。事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討議の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。



「高校生交通安全教育指導マニュアル」



福島県立福島工業高等学校の先生方による感受性教育（写真上）と実技教育（写真下）



### ●他業種との協働による交通安全活動の拡大

Honda は、交通安全活動の普及拡大に向けた取組みの 1 つとして、全国に 300 以上の店舗を展開する自転車専門店のイオンバイク（株）と連携した活動を推進しています。この取組みは、Honda が自転車の交通安全教育ノウハウをイオンバイクに提供し、同社がそのノウハウをお客様や地域の方々に提供するというものです。Honda の教育ノウハウと、イオンバイクの持つ自転車利用者との接点という両社の強みを持ち寄り、互いになり部分を補完することで、さらなる活動の充実をめざしています。

今年度は「親子で学ぶ 自転車あんぜん教室」を全国へ拡大していくため、地域ごとにイオンバイクの店舗を管理する国内の全エリアマネージャーを対象に、指導者養成勉強会を実施しました。勉強会では、Honda のインストラクターが、子どもに指導する時のポイントや、基本練習・走行練習の具体的な内容を説明。その後、参加者同士によるロールプレイングによって、指導ノウハウを身につけていただきました。イオンバイクは今後、全国各地での教室開催を加速させていく考えです。



イオンバイクの「親子で学ぶ 自転車あんぜん教室」指導者養成勉強会





# 2) 普及活動の変革と進化 03

## 福祉領域における安全運転教育



Hondaは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念のもと、お身体の不自由な方々の社会復帰に向けた安全な移動手段の確保のために教育の機会を提供しています。さらに、地域における運転復帰プロセス構築の支援として、病棟施設や福祉団体、自動車教習所との連携も進めています。

### ●運転復帰への可能性を広げる場と機会を創出する

高次脳機能障がいのある方がクルマの運転を通して社会復帰されることへの支援として「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト（以下、サポートソフト）」や「自操安全運転プログラム（以下、自操プログラム）」の普及拡大に向けて取り組んでいます。四国地域ではサポートソフトを導入する病棟施設同士が連携して、共通の課題解決に取り組んでいます。Hondaも、こうした病棟施設の連携活動に協力することで、地域における運転復帰プロセスの構築を支援しています。自操

プログラムはHondaの交通教育センターで提供していますが、希望者がもっと身近な場所で受講できるようにするため、全国の自動車教習所への普及を図っています。また、福祉施設へのクルマでの送迎を担う運転者向けの「移送安全運転プログラム」も送迎サービスを提供する団体などに活用していただけるよう、はたらきかけを行っています。岡山県や山形県では、今年度から送迎運転者講習会にこのプログラムを実技として取り入れています。



自動車教習所の教習指導員に「自操安全運転プログラム」のノウハウを提供



山形県内で開催されている施設送迎運転者勉強会では実技演習として「移送安全運転プログラム」が取り入れられている

## 交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携



Hondaは、交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

### ●教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

Honda安全運転普及本部が、全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場をご提供することを目的として、2001年に始めた「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」（後援：（一社）全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業（株）法人営業部）は今年16回目を迎えました。会場と

なった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国82校142名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。今回は大会史上初めて女性の教習指導員が普通二輪部門総合優勝を果たしました。また、この大会には、全国21校21名の教習指導員の皆様に審判員としてもご協力いただいています。



第16回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技



第16回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での二輪競技

### ●二輪車関連団体などの活動にも積極的に協力

Hondaは（一財）全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務や、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。

また、（一社）日本二輪車普及安全協会が実施する安全運転活動への各種協力や、（一社）日本自動車工業会が推進する高校生原付通学者や高齢ライダーへの安全運転指導などにも協力しています。



第49回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力



第47回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力



## 2) 普及活動の変革と進化 04

### 企業・団体や学校、個人に対応した参加体験型の実践教育



全国7ヵ所にあるHondaの交通教育センター（P26参照）ではHonda社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に参加体験型の実践教育による安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約9万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。



#### ●企業の安全運転教育や学校での交通安全教育をサポート

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを提供しています。例えば、鈴鹿サーキット交通教育センターは（一財）日本救護救急財団と連携し、「患者搬送・安全走行スキル研修」を実施しました。これは、病院や施設で緊急自動車の運用や患者搬送を担う職員に必要な運転スキルを身につけていただくことを目的としています。実技ではクルマの特性や危険回避方法、速度が車体と患者にどのような影響を与えているのかを体験し、病態に合わせた運転を学んでいただき

ました。また、交通教育センターレインボー埼玉は地域貢献活動の一環として、同センターのある埼玉県川島町内の小・中学校5校で自転車教室を開催。インストラクターが事故事例を再現し、事故に遭わないようにするための安全な自転車の乗り方を伝えました。このほか、同センターでは中学生社会体験チャレンジとして中学1年生3名を受け入れ、業務の体験を通して安全への理解を深めていただきました。



患者搬送・安全走行スキル研修（鈴鹿）



小・中学校での自転車教室（埼玉）

#### ●新安全運転教育プログラム「ドライビングマスタープログラム」がスタート

今年には交通教育センターレインボー浜名湖が企業向けの新安全運転教育プログラム「ドライビングマスタープログラム（以下、マスタープログラム）」を開発しました。多くの企業が交通教育センターを利用し、路上診断や安全運転研修の受講を通じて社員への安全運転教育を行っています。そうした企業からは社員各々の運転能力の判定や課題を把握するための研修を求める声があります。そ

こで、このプログラムでは企業ドライバーの運転能力や課題を客観的に診断し、自分の運転特性を把握していただけるようにしました。受講者はどの程度の安全運転能力を持っているのか理解でき、企業の安全運転管理者にとっては受講者のレベルを把握して社用車の運転認定や今後の運転教育に役立てられるようにもなっています。



交通教育センターレインボー浜名湖で行われている「ドライビングマスタープログラム」

#### ●視覚障がいのある方々に運転する喜びを感じていただく

アクティブセーフティトレーニングパークもてぎは、旅行会社のクラブツーリズム（株）が主催している「視覚障がい者 夢の自動車運転体験ツアー」を2013年から受け入れています。視覚障がいのある方の運転体験は助手席に補助ブレーキが付いている車両を使用し、カーブや直線を組み合わせた様々なコースを走行します。運転

に必要な情報は助手席に同乗するインストラクターが受講者に伝達。ハンドルをアナログ時計の文字盤に見立て、左手の位置を指示。これに合わせて、アクセルやブレーキの踏み加減を指示し、視覚障がいのある方に自らクルマを操って運転する喜びを感じていただいています。



アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでの「視覚障がい者 夢の自動車運転体験ツアー」



#### ●Hondaのインストラクターの指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図る場と機会の提供を通して、全世界に通用するインストラクターの育成を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。17回目となる今年も、国内の交通教育センターや事業所、海外9カ国

からインストラクター72名が選手として参加しました。運転技術だけでなく、指導者としての幅広い知識を確認するため、二輪・四輪の実演を交えた「実技指導力審査」（海外選手は「筆記レポート」）も行うなど、指導力の向上につなげています。



第17回セーフティジャパンインストラクター競技大会

